

(公財) 国際宗教研究所 宗教情報リサーチセンター

20周年記念誌・国外

→デジタル版公開ページ http://www.rirc.or.jp/20th/20th.html

グローバル化する世界と日本宗教

-21世紀における海外での展開を中心に-

井上順孝

はじめに

第二次世界大戦後、海外に渡航する日本人は戦前とは比較にならないほど増えたが、とくに 1980 年から 2000 年にかけての増加は急カーブである。1970 年までは年間 100 万人に満たなかったが、1980 年代には 500 万人を超えた。 さらに 1990 年代には 1,000 万人を超え、21 世紀には毎年 1,500 万人を超えるようになった。海外に居住して働いたり学んだりする日本人も増加し、21 世紀には 100 万人を超えるようになった。

海外渡航者の多くは観光目的であるが、こうした場合は滞在期間も比較的短く、日本宗教の広まりには直接的には関係しないと考えられる。しかし、留学、海外勤務、国際結婚などという形で国外に居住するようになった人々の増加は、日本宗教の広まりと関わる場合が出てくる。日系企業を媒介とした宗教の広まり、外国人の配偶者が日本宗教に関心を抱くという現象も起こっている。さらにグローバル化の進展は、従来とは異なった形での日本宗教の広がりも増やしている。

日本宗教が国外に広がるというのは近代になってから生じた現象である。戦前は移民に伴うものや、日本の国策に伴うものが大半であった。戦後は戦前のような地域単位での移民はなくなっていった。戦後はまた政教分離が原則となったから、国策に依存して宗教施設が海外に広がるということもなくなった。代わって教団が積極的に国外で布教する例が増え、また国外に在留して信仰を持つ日本人が、職場や知人たちなどに個人的に布教をするような場合もみられる。創価学会は外国人信者が100万人を超えるし、欧米では多くの禅センターが設立されている。その他、多くの日本宗教が海外で多様な活動を展開している。個別の事例に関しては研究がなかなか追い付かないというのが実情であるが、21世紀になって、おおよそどのような状況になっているかを概説したい。

1,20世紀までの日本宗教の海外布教

最初に20世紀までの日本宗教の海外への広まりを簡単に振り返っておきたい。日本の宗教が何らかの組織的な背景をもって海外で活動するようになるのは明治期である。当初は、それらは大きく分けると2つのタイプがあった。1つはハワイや北米西海岸などへの移民に伴うタイプのものであり、もう1つは日本が朝鮮半島、満州、台湾など主に東アジア地域への支配権を拡大しようとする試みに付随するタイプのものである。前者は移民依存タイプ、後者は国策依存タイプと呼べる。ハワイや北米西海岸には1890年代から仏教各宗派や教派神道などの宗教施設が建立されるようになる。これは日系人が現地でも日本にいたときと同様の人生儀礼や年中行事を行いたいという要望に対応するものであった。初詣やその他祈願の場としての神社、葬儀や年季法要の場としての寺院が主たるものであった。20世紀に入り、米国で1924年に排日移民法案が可決され、移民の定住化が進行する。1920年代から、天理教、金光教、生長の家などがハワイや北米への布教を始めるようになる10。また20世紀には南米にも日系移民が住む地域に寺院が設立された。

他方東アジアでは、朝鮮半島や台湾の植民地化をはじめ、日本の統治する地域が広がるのに呼応するように、神社、寺院が建立されていった。台湾では、1900年に官幣大社台湾神社が創立された。朝鮮半島では、1918年に京城(現ソウル)に朝鮮神社が設置された。朝鮮神社は1925年に官幣大社朝鮮神宮となり、その後、朝鮮半島の各地に50以上の神社が建立された。樺太では、1910年に豊原市(現ユージノ・サハリンスク)に、官幣大社樺太神社が創建された。第一次世界大戦後、日本の委任統治地域となった南洋(サイパン、パラオ、ヤップ、トラックなど)にも、神社が創建された。満州では、日露戦争後の1905年に、最初の神社安東神社が建てられた。

仏教宗派も東アジアに寺院を建立したが、海外布教にもっとも熱心であった 浄土真宗本願寺派は、日清戦争に際しての従軍僧侶派遣を契機に 1896 年に台 湾に開教をし、1901 年には台湾別院ができている。朝鮮半島でも、日露戦争後、 本願寺派は韓国開教総監部を設置し、1907 年には京城府に朝鮮別院が設置さ れた。戦前、各地に設置された寺院、布教所の総数は 130 余となる。ハワイに



写真 1 ホノルルにある浄土真宗本願寺の寺院

はインド風の浄土真宗本願寺派(本派本願寺)の寺院がある(写真1参照)。

第二次大戦時には、日本は南北アメリカにおいては、米国、ブラジルなどを敵国として戦い敗戦したという事情があったものの、移民社会を基盤とした宗教は、戦後も活動を継続することができた。南米にも浄土真宗などいくつかの仏教宗派の寺院が建立された。戦後の特徴は多くの新宗教が新たに布教を開始したことである。1951年にサンフランシスコ条約が締結されるが、その翌年には天照皇大神宮教の教祖北村サヨみずからが、ハワイや北米に足を運び、各地で講演するなどして布教活動を行なった。53年には世界救世教の布教も開始された。立正佼成会、創価学会、PL教団などがそれに続き、70年以降はその数がますます増えていった。

これに対し、アジア各地に戦前にあった神社、寺院は、戦後はすべて活動できなくなった。宗教施設が破壊されたり、他の目的に転用されたりした。天理教、金光教なども一部の例外を除き、ほぼ撤退した。

こうして戦後は移民に伴う布教(移民依存タイプ)が停滞期を迎え、日本の 植民地化に伴う布教(国策依存タイプ)は消滅したが、高度成長期になると、 外国人をも布教の対象としていくタイプの教団が増える。企業の多国籍化に対 応するような多国籍宗教と呼ぶべき形態もみられる。それは創価学会、世界救世教、PL教団など、ほとんどが新宗教である。例外的なのは禅仏教であるが、禅は米国をはじめ西欧で受け入れられ、各地に禅センターが設立される。これらは移民社会にさほど依存していないし、むろん国策には依存していないので、無基盤タイプと呼べる。

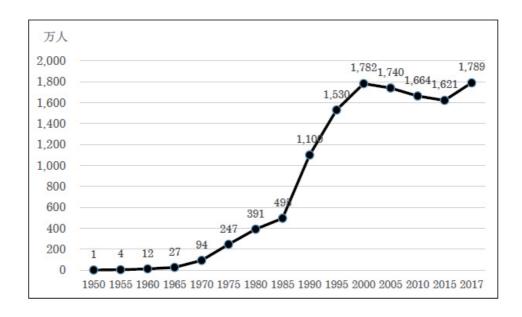
グローバル化の進行は日本宗教の国外進出にも影響を与えるが、アジア地域への広まりに関しては、戦争によって生じた日本への厳しい視線が和らいできたことや、東アジアにおける政治的対立がある程度緩和の方向に向かったことも考慮すべきである。台湾は1987年7月15日に戒厳令が解かれ、日本宗教の活動もかなりやりやすくなった。韓国では1998年10月に、当時の金大中大統領が「日本の大衆文化解禁の方針」を表明し、以後日本映画の上映など日本の大衆文化が解禁も可能になった。

ただし、中国の場合は日本の宗教の布教活動ができない状況が続いている。 1949年10月1日に中華人民共和国が成立し、中国共産党一党独裁の体制が確立すると、宗教政策は非常に厳しいものになり、日本宗教が布教活動する余地はまったくなくなった。鄧小平の指導下で1978年12月の中国共産党の全体会議で開放政策が打ち出されたが、宗教に関しては外国勢力の支配を受けないとする憲法第36条の第4項が堅持されている。

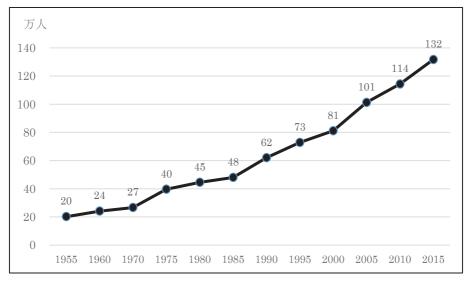
1980年代、90年代と日本人が国外に出ていく割合が急増するが、これは日本におけるグローバル化の急速な進行の時期でもある。1950年以降の日本の海外渡航者数の変化を法務省の統計に基づいてグラフ化してみると、グラフ1のようになる。海外渡航者はとりわけ1985年から2000年にかけて急増している。ただしその後はあまり伸びていない。日本社会で高齢化が進行したことや、経済的停滞が関係している可能性がある。

また海外に居住する日本人も 1990 年以降確実に増えているが、日本に住む 外国人の増加に比べるとその伸びは小さい。海外在留の日本人の数は増加の推移をみると、1955 年には約 20万人であったが、1980 年代から増加の割合が増える。グラフ 2 に示す通り、1987 年に 50万人を超え、1990 年には約 62万人となった。そして 2005 年には 100万人を超え、2017 年には約 135万人となった 2 。

グラフ1 出国した日本人数



グラフ2 海外在留邦人数(外務省統計に基づく)



21世紀になってからは、日本に到来する国外の宗教は非常に多様化しているが、それに比べると、日本宗教の海外への進出はそれほど多くなってはいない。新宗教も国内での信者数が全体として減少気味であることを反映して、海外布教もあまり活発になったとは言えない。とはいえ、いくつかの新宗教が活動を多様化させ、宗教活動以外の福祉活動、社会活動を展開させている。また創価学会は SGI (創価学会インタナショナル)として世界各地に布教の拠点があるが、とくに韓国で信者数を増やしている。本書では李和珍がこれについて紹介している(李和珍「韓国 SGI の展開と現況」参照)。また中国では宗教の布教活動はできないけれども、多くの大学と創価大学とが協定を結んでいる。中国の大学との創価学会の協定等については、本書では小林宏至が紹介している(小林宏至「大陸中国における日本の新宗教―中国の学術機関と創価学会の関係を中心に一)。

これに対し伝統仏教宗派では、戦前からの移民基盤の活動は見られるが、外国人への布教活動はほとんど見られない。この点については本書では高橋典史他が現状を紹介している(高橋典史・高山秀嗣・武井順介「日本の伝統仏教の海外展開の現状と課題」参照)。移民が多かった地域が伝統仏教宗派の寺院が置かれている地域でもある。

こうした日本の伝統的仏教宗派の国外の活動の中では、禅センターの欧米への広がりが特筆される。禅は日本人だけでなく、とくに欧米の人々に広く受け入れられ、多くの禅道場が設立されている。本書ではこうした禅センターの広



写真 2 ホノルルにあるハワイ出雲大社



写真3(上)、写真4(右) アメリカ椿大神社 (撮影 石黒弓美子)



まりについては藤井修平が論じている(藤井修平「西洋における禅の広がりの 様相」参照)。

創価学会以外にもいくつかの新宗教が国外での活動を展開しているが、中に は布教を主体とするよりも、社会活動を前面に出す場合も見られる。

2. 神社神道と仏教宗派の現況

(1) 米国ワシントン州におけるアメリカ人宮司の活動

戦後の神社神道は日本以外の地域における神社神道の広まりにはほとんど関心を抱いてこなかったと言える。すでに述べたようにアジア各地の神社は敗戦によりすべて消滅した。また 1945 年から 52 年まで日本を占領下においた連合国最高司令官総司令部(GHQ)は、戦前の神社のあり方を国家神道として厳しく扱った。海外布教どころか、国内の神社の継続さえ危惧された時期が数年間続いた。高度成長期を経てしだいに神社の活動も戦前の活況を自由になされるようになったが、ハワイなど移民社会に支えられていた海外の神社の活動を視野に入れることはなかった。現在でも海外にいくつかの神社がある移民基盤タイプの神社の活動に、神社本庁が直接関わることはない。個々の神社の神職の個人的な関与や、出雲大社教など神道教派の関与によって維持されてきている。しかし1つだけ注目すべき事例がある。それは20世紀後半になって、北米に初めてアメリカ人によって運営される神社ができたことである。シアトル郊外のグラニット・フォールズという町にある椿大神社(Tsubaki Grand Shrine of

America)である。同神社は三重県四日市市にある椿大神社のアメリカ分社という位置づけである。ハワイにあるいくつかの神社が、もっぱら日系人を対象としているのとは大きく異なり、日系でないアメリカ人が主なメンバーとなっている。

21世紀になって神社を預かるようになったのは、ローレンス・コウイチ・バリッシュ(L.K. Barrish)というアメリカ人である³⁾。バリッシュは三重県の椿大神社の山本行隆宮司と知り合ったことを契機に神職になった。山本宮司は1968年に初めて渡米して以来、米国に神社を建立したいという思いを抱いた。79年にカリフォルニア州オークランドに土地を購入し、87年にアメリカ椿神社を建立した。翌年、合気道を学んでいたバリッシュが初めて椿大神社を訪問し、山本宮司との交流が続くことになった。2001年にアメリカ椿大神社はカリフォルニア州のストックトンから、ワシントン州のグラニット・フォールズに遷座した(写真参照)。その少し前に、グラニット・フォールズに合気道の道場が作られ、道場内に「神流神社」が祀られた。

2002年に山本宮司が死去したのち、日本で神職の資格をとったバリッシュが禰宜となり、主としてアメリカ人を対象にした活動を行うようになった。同神社がワシントン州のアメリカ人に広く知られるきっかけの一つに、たまたまであるが、大リーグのイチロー選手が2001年にシアトルマリナーズに移籍したことが挙げられる。その歓迎式典の際に、山本宮司は神道式の安全・必勝祈願を行い、バリッシュらも奉仕に加わった。式典の様子は地元紙に大きく報じられたほか、全米ネットのテレビでも放映された。これで関心を抱いた人が出たのである。

ワシントン州には3万6千人ほど、また在留邦人が1万人ほどいる。しかしフェイスブックは英語であるので、そのメンバーの大半が外国人である。バリッシュは合気道の教えと神道の教えとを独自に重ねて説いている部分があり、それがアメリカ人には神道に対して近づきやすい印象を与えているようである。神社における各種の儀礼だけでなく、出かけての祈祷、お祓いの類も多々行っている。神前結婚式、トヨタ自動車の現地工場の地鎮祭など、日本の神社で雑祭と呼ばれているような儀礼も数多く行う。

神社の主祭神は猿田彦大神である。猿田彦大神については、「武道の守り神

であり、勇気と正義の神である。地上の神(国つ神)の祖神であり、地と天との境に立つ」と解説している。その他、天之鈿女命、天照大神、宇賀御霊神も祀られている。特徴的なのは、こうした日本の神社にも祀られている神の他に、アメリカ国土国御魂神も祀られていることである。

筆者が 1970 年代末にハワイで調査した際に、ホノルルにある布哇神宮でも、祭神にヂョージ・ワシントン、アブラハム・リンカーン、カメハメハ大王が含められていることを知った(写真 5 参照)。その理由を尋ねたところ、ワシントンは合衆国の国父、リンカーンは中興の祖、カメハメハ大王はハワイの功労者だからということであった。写真こうした先例もあるから、椿大神社にアメリカ国土国御魂神が祀られていることは、神社神道が海外に展開していったときの祭神に関する変容の一つのパターンを示しているとみなせる。

1世紀に入ってからの展開として1つ挙げられるのは、バリッシュ宮司は神社のフェィスブックを開設し、神道に関する質疑応答や意見交換を行うようになったことである。2002年にバリッシュ宮司となってから、情報誌の活用も積極的になすようになった。グラニット・フォールズに移転してから新しいウェブサイトを開いた。2004年には崇敬者との間にメーリングを活用するようになった。そして2010年のフェイスブック開設に至ったわけである。情報化に



写真 5 ハワイ大神宮の祭神にまつられたワシントン

応じた交流は会員の急速な拡大をもたらした。立ち上げた当初は 20 人ほどであった会員が、1 年あまりで 1,200 人近くまで増大したという。さらにここからサブグループもできた。英語だけでなくスペイン語での交流するグループも生まれた。崇敬者以外の参拝者が数多く生まれるようになったのである。日本国内の神社においても、氏子観念が弱まる中に崇敬者を増やすためさまざまな活動を試みる神職がいるが、そうした試みに似たような活動をアメリカ人を対象にして行っていると解釈もできる。

(2) 日系人社会を基盤とし続ける仏教宗派

神社神道同様、仏教各宗派の海外での活動は、戦後は移民基盤タイプのものが主流であった。けれども伝統仏教宗派の場合は、神社神道とは異なり、海外開教という考え方があり、海外への布教も宗派として取り組む姿勢は備わっている。とくに浄土真宗本願寺派が海外開教には力を入れてきた。それでも基本的に日系人を対象とした活動であり、地域の人たちのコミュニティセンターとしての役割が大きい。日系人社会の紐帯が弱まると、仏教寺院での活動も小規模になっていくという傾向は免れがたい。また日系人以外の外国人への布教というのは、次の禅仏教を除いてごく稀である。主として習俗面での仏教と日系人社会とのつながりの中で、活動が継続されている。

仏教宗派の中では浄土真宗本願寺派が比較的海外での活動に力をいれている。浄土真宗本願寺派は1973年11月に、親鸞聖人御誕生800年、立教開宗750年の記念事業の一環として本願寺国際センター(京都市下京区)を建設した。同派の国際的な伝道活動を推し進めてゆくための役割を担っている。2012年に国際センターと改称した。国際センターのウェブサイトには海外活動拠点マップがあり、Australia、BCA、Canada、Europe、Hawaii、Nepal、Taiwan、South Americaの8ヶ所が図示され、いずれかの国名ないし地域名をクリックすると、それぞれに含まれる活動拠点が示される。なお、BCAはBuddhist Churches of Americaの頭文字である。

大半は日系人に存在を基盤においているが、21世紀に入ってからは、ネパールのように新しいタイプの活動の例もある。ネパールでは、1992年設立のNGO法人「グリーンライフ研究所・ネパール」を前身として開教活動が始まっ

ている。同法人の代表者とインド出身の僧侶との出会いが大きな転機となって 寺院建立の計画が進められ、2014年に寺院が完成している。またヨーロッパ ではドイツ、スイス、イギリス、ベルギー、ポーランド、ルーマニアの6カ国 で伝道活動がなされているという ⁴。ごく少数ではあるが、日本仏教に関心を 持つ人も出ているということである。

日蓮宗にも国際活動を展望するセンターがある。1991年に北米開教庁に北 米・ハワイの開教師が集まり、開教布教センターの開設式が行われた。日系人 社会以外への展開はまだ少ないが、東南アジアやヨーロッパにおいては、小規 模ながら活動が始まっている。

その他の仏教宗派も、日系人以外への布教を視野に入れているが、まだそれ ほどの広がりはみせていない。

(3) 欧米に広がる禅センター

日本仏教の中で、外国人への広まりという点において例外的な事例となるのが禅センターである。禅センターは北米をはじめ、ヨーロッパにも広がっており、外国人の僧侶が何人も生まれている。禅仏教への欧米での関心自体は戦前にさかのぼる。19世紀末から20世紀前半にいずれも臨済宗僧侶の釈宗演の弟子にあたる鈴木大拙、千崎如幻⁵、あるいは宗演の門に連なる曹渓庵らの活動によって、少しずつアメリカ人の関心を惹くことになった。戦後は1960年代頃から当時のカウンターカルチャー(対抗文化)の広まりもあって、広く知られるようになった。各地に禅センターが設立されるようになった⁶⁾。曹洞宗でも鈴木俊隆、前角大山が、いずれも日系人を対象とした曹洞宗の寺院を出て、アメリカ人を対象にした禅センターを設立し、アメリカ人禅僧を育てた。前角がこうした活動をするようになったのは、日系人のコミュニティセンターの機能がつよかった曹洞宗の寺院では、禅に関心をもって訪れるアメリカ人の要望に適切にこたえられないことが一つの大きな理由であった。禅仏教は一時的なブームに終わることがなく、アメリカ社会に根付いたものになってきている。

ケネス・タナカはアメリカ仏教を次の4つに区分している[ケネス・タナカ、2010]。①旧アジア系仏教徒、②新アジア系仏教徒、③瞑想中心の改宗者、 ④題目中心の改宗者。日本の仏教にこれをあてはめると、移民のコミュニティ センターとして機能している伝統仏教宗派は①にあたる。アメリカ人を対象にした禅センターは③にあたる。そして SGI (創価学会インタナショナル) など 仏教系の新宗教は④にあたる。タナカが注目しているのは③のタイプであり、120万人ほどであると推定している。

タナカは、③のタイプの仏教の特徴を日常生活の中で実勢される瞑想(メディテーション)としてとらえている。そしてそれに関わっているのが、日本の禅、チベット仏教、東南アジアのテーラワーダ仏教と分析している。もともと異なった宗派として展開した仏教が、米国では同じようなカテゴリーのものとして機能していることになる。

ヨーロッパでは、曹洞宗の澤木興道から得度を受けた弟子丸泰仙が 1960 年代後半から禅を広めた。1969 年にはヨーロッパ禅仏教協会が創立され、翌年 A Z I(Association Zen International)ができた。泰仙が 82 年に死去したとき、2,000 人ほどの弟子がいたとされる ⁷⁾。ヨーロッパには南北アメリカとは異なり日系人の移民社会がなかったので、禅仏教は移民社会とは関係なく、それに魅かれる人たちのネットワークの中で展開した。弟子丸は当時の日本の禅宗に一種の失望感のようなものも抱いていたようであり、むしろヨーロッパにおいてこそ、真の禅が生きるというふうに考えていた。その意味では弟子丸は日本の禅宗を教団として広めるというより、その枠にこだわらないボーダレスな禅の広まりに力を注いだとみなすことができる。

欧米では禅センターが 21 世紀にはいってますます数を増しているが、その中で注目されるのは三宝教団が関係したセンターが多いことである。三宝教団は曹洞宗に属していた安谷白雲が曹洞宗を離脱して、1954 年に設立した教団だが、臨済宗の公案も取り入れている。前角大山も安谷に師事したことがある。安谷が欧米に禅を広めようとしたのは 1962 年以降である。1980 年代、アメリカ人が責任者となる禅堂が広がる。総じて禅仏教は宗派のボーダーにあまりこだわりのない展開となっている。

3. 新宗教の海外での展開

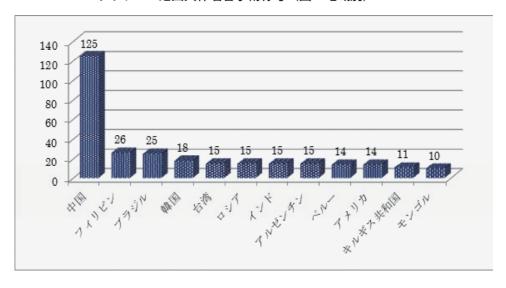
(1) 創価学会

新宗教の中で創価学会の外国人信者数の多さは群を抜いている。もっとも信

グラフ3 池田大作名誉学術称号(年別)



グラフ4 池田大作名誉学術称号(国・地域別)



者数が多いのは韓国であるが、その他のアジア諸国、南北アメリカ、ヨーロッパ、 そしてアフリカにも信者がいる。

国外布教が本格化したのは池田大作3代会長の時代であり、1975年にSGI(創

価学会インタナショナル)という組織が設立されている。その後各国の組織は SGI の傘下にあって互いにいわば兄弟姉妹的な関係にあるとされる。当初はある程度移民社会や日系人社会を基盤にして広がった地域もあった。ハワイの場合は日系人社会であり、北米の場合は、国際結婚して米国に渡った日本人女性の信者のつながりが大きなきっかけとなった。ただ米国の場合、1960年代以降は若者によるカウンターカルチャーが盛んであった西海岸を中心にアメリカ人の入信者が急増し、10万人を超える信者が出た。以後ヨーロッパ各国にも信者が増えていった。南米、アジア各国、アフリカにも支部ができていくが、とくに韓国では 20 世紀末から信者が急増し、公称では 100万人を超えるようになっている。

日本の創価学会とのつながりは、池田大作 SGI 会長を顕彰するという形、また中国が典型であるが、大学間の交流、さらに文化交流の協定を結ぶという形式などによって深められている。2018年10月の時点で、池田大作に対しては、28の国家勲章、800の名誉市民(名誉国民、名誉州民、名誉県民なども含む)称号が贈られている。世界の大学・学術機関からは、385の名誉博士号・名誉教授の称号等を受けている。どの国からの称号であるかということが、東洋哲学研究所のサイトで分かる。そこに池田大作が SGI 会長となった1975年以来の名誉学術称号一覧があり、2018年10月現在の385の受賞の日付、大学名、博士号・称号、国・地域名が年月順に並んでいる8。

ここに示されたデータをもとに年別に分類して作成したのがグラフ3である。最初のものは1975年5月、当時のソ連のモスクワ大学からである。81年に2件、84年に2件、87年に1件というペースであったが、1990年以降、毎年複数回になり、10件を超える年もある。2010年の34件がピークである。また同様に国・地域別に分類して10件以上のものを示したのがグラフ4である。もっとも多いのは中国で125件と飛び抜けて多い。次いでフィリピン、ブラジル、韓国の順である。これらのデータは、創価学会の国際的な広がりある程度反映していると考えられるし、また創価学会がどの国との関わりが深いかを考える上でも参考となる。

なお、創価学会は国内では 1991 年に日蓮正宗から破門され、日蓮正宗との 対立が鮮明になった。これを反映して国外でも、SGI の傘下に加わって日本の 創価学会とのつながりを維持するグループと、これと対立するグループとに分かれる場合が出てきた。

(2) その他の新宗教

創価学会ほどの外国人信者はいないものの、新宗教の中には海外支部を設置したり外国人信者を一定数得ている教団がある。1990年に刊行された『新宗教事典』において、海外布教についての項目が以下の15教団について設けられている。大本、金光教、修養団捧誠会、真如苑、崇教真光、生長の家、世界救世教、創価学会、天照皇大神宮教、天理教、日本山妙法寺、PL教団、本門仏立宗、立正佼成会、霊友会である。それ以外にもイエス之御霊教会教団、龍泉、おうかんみち、松緑神道大和山、世界真光文明教団、善隣会(現・善隣教)、天光教、大乗教、天照教、天真道、天神教、弁天宗、ほんみち、山蔭神道が、戦後海外で布教していたことが記されている⁹。

このうち、真如苑、崇教真光、生長の家、世界救世教、霊友会などは、1990年代以降も積極的に海外布教を展開している。本書では主として新宗連加盟の教団の国際的活動について、隈元正樹が概説している(隈元正樹「日本の宗教連合組織と新宗教の国際展開」参照)。

また『新宗教事典』刊行後、海外で布教し外国人信者が一定程度得られた教団は、オウム真理教、幸福の科学である。オウム真理教は 1995 年に地下鉄サリン事件を起こしたが、その年のうちに宗教法人は解散となっている。だが、ロシアでは非公認ながら、今でも活動しているロシア人信者がいる。地下鉄サリン事件以後のロシアにおけるオウム真理教の活動については、井上まどかの研究がある 100。

それによると、地下鉄サリン事件の直後、ロシアでもオウム真理教の活動禁止が命じられ、4月には宗教法人としての登録を抹消された。しかし、2004年の段階でも約300人の信者がモスクワを中心に存在した。シガチョフ事件と呼ばれる麻原奪還計画が立てられ、2000年から翌年にかけて首謀者シガチョフら5人が3~8年の禁固刑となった。2005年2月にはロシア人信者が運営するヨーガ教室で、麻原の教えにもとづく「温熱修行」を行なったロシア人信者が死亡する事件もあった。

またウェブ上での情報発信は継続され、ロシア語で書かれた「オウム真理教」の公式ウェブサイトが 2015 年の時点でも確認された。動画、音楽、テキスト、体験談などが載せられているという。また日本でオウム擁護として批判された学者によるオウム真理教への肯定的評価がロシア語に訳されて掲載されている。『生死を越える』、『マハーヤーナ・スートラ』、『滅亡の日』などのテキストも全文訳がある。21 世紀になっても、日本人がほとんど関与しないまま、ロシア人信者によって、小規模ながら活動が継続されていたと考えられる。

組織が結成されてから数年にして、とくに布教の足場になりそうなものがない地域で、これだけの組織になったことや、日本で宗教法人の解散が命じられたのちも、ロシアでは活動が継続されたわけで、これらは宗教社会学的にはきわめて興味深い事例である。だが、犯罪に関係したとなると、調査研究にもさまざまに難しい要素が入りこんでくるので、結果的にロシアでの実態も十分解明されないままである

幸福の科学も世界各国で活動しており、大川隆法の著書は各国語に翻訳されている。教団名の英語表記は Happy Science となっている。本書ではインドにおける幸福の科学やその他の日本宗教の活動の事例を虫賀幹華が紹介している(虫賀幹華「現代インドにおける日本宗教の展開―現地の人びととのかかわり方を中心に」参照)。

(3) 新宗教にみられる多様な活動

新宗教の海外布教は現地の外国人信者が一定数得られ、支部組織ができるということが一つの分かりやすい形態である。しかし、グローバル化が進行する時代には、たんに外国人の信者を獲得するという方向性だけでなく、現地の社会に認知を得るためのさまざまな活動が増えている。かなりの規模でなされている例として、当地の年中行事への組み込み、災害時のボランティア活動、教育機関等への支援活動などがある。

①年中行事への組み込み

自教団の宗教儀礼をイベント的な要素を強めながら国外で催すものの代表的な事例として、真如苑のハワイにおける精霊流しがある。1977年のハワイ調 香の際にすでにハワイには真如苑の支部があったが、当時の信者はほぼ日系人 であった。しかし 90 年代あたりから外国人への布教も積極的になる。1999 年以来ハワイのワイキキビーチで行われている灯籠流し(Lantern Floating Ceremony)は、21 世紀においてはハワイにおけるイベントとなっている。灯籠流しは 2013 年からはニューヨークでも行われている。またケニア、ドイツ、台湾、ペルーでは 1 回だけのイベントとして行われた。

真如苑の国外布教はグローバル化の中でやや変化を見せており、外国人信者の増加が目立ってきている。アジアでは台湾が代表的である。1985年に台湾の真如苑センターが設立されたが、2010年代半ばには公称で約4万人の現地信者がいる¹¹⁾。台湾とタイの真如苑を調査したベレズキン・リイサは、タイが少数の信者にとどまっているのに対し、台湾では多くの信者を得たことに着目し、受け入れる側の社会的文化的違いが関わっていることを指摘している¹²⁾。

②支援活動・ボランティア活動

新宗教教団による国外での災害や貧困その他に対する支援は戦後に広がり、とりわけ高度成長期以後に盛んになってくるが、新宗連(日本新宗教団体連合会)に所属する教団にその例が多い。立正佼成会は教団独自に国外への開発援助、医療援助を行うほか、他教団と協力としてユニセフ募金やアフリカに毛布を送る運動などを展開した。松緑神道大和山では1974年に当時の教主大和小松風の提唱で「一食を捧げ一欲を節する運動」が開始され、その基金で1977年以降、国外での難民救済、救籟施設の建設(台湾、タイ)を支援している。新宗連の活動は多様である。その他、創価学会は1981年にUNHCRのNGOに登録され、青年部の代表がアジア、アフリカにおいて、難民キャンプを訪問したり農業指導を行ったりした。

こうした動きが 20 世紀末からさらに拡大している。妙智會教団は 1990 年に開始された「ありがとう基金」を 2012 年に「ありがとうインターナショナル」と改称し、国外への支援活動にさらに力をいれるようになった。また 1999 年にはアジアの経済的に困難な地域の子どもを対象に、「アジア子ども奨学金」による支援を行っている。本書では李和珍がとくに「ありがとうインターナショナル」の活動について論じている(李和珍「妙智會教団『ありがとうインターナショナル』の国際的展開」参照) 13 。

災害ボランティアとしては、真如苑がかなり組織だった活動を開始した。

SeRV(真如苑救援ボランティア)の活動は 1995 年の阪神淡路大震災を契機に始まり、国内での活動を中心にしてきたが、2015 年 5 月からは国外でも活動をはじめた。同年 4 月 25 日にネパールで起こった大地震を受けて SeRV ネパールが結成された。2015 年から翌年にかけて無料の巡回治療や清掃活動などを行っている。

③教育機関への各種の寄付・寄贈

国外の教育機関との連携や寄付等は創価学会が突出している。創価学会は1971年に創価大学を設立した。創価大学はとりわけ中国の多くの大学と協定を結んでいる。これについて本書では小林宏至が細かく紹介している(小林宏至「大陸中国における日本の新宗教―中国の学術機関と創価学会の関係を中心に」参照)。多数の図書を寄贈したり、留学生を交換したりしている。中華人民共和国憲法の第36条4項には「宗教団体及び宗教事務は、外国勢力の支配を受けない。」とあるから、中国では国外からの宗教は布教できない。国外の宗教から支援を仰ぐこともできないので布教活動はできない。しかしこうした教育機関における交流を仲介として池田大作名誉会長の書籍等が、中国で広く紹介



写真 6 SOAS の入口にある寄付者の氏名リスト

されている。教育・文化・学術といった面での交流が深められている。

国外布教の一環として学校を設置するというのは、近代におけるキリスト教の世界各地における布教ではよく見られたことであった。日本にも明治以降に設立された多くのキリスト教系の学校がある¹⁴⁾。しかしここで示したような国外の教育への関わりは少し性格が異なる。新宗教で大学をもつのは創価学会と天理教だけである¹⁵⁾。したがって国外の留学生の受け入れや大学同士の交流を基盤にした国外への支援等はこの2教団に限られる。

21世紀にはいると、そうではない形での国外の教育機関への寄付等も出ている。ロンドン大学の SOAS (東洋アフリカ研究学院)の入口には、支援を受けた人や団体への感謝が刻まれているが、そこには阿含宗管長の桐山靖雄、及びワールドメイトの教祖半田晴久 (深見東州)の名前がある (写真 6 参照)。ワールドメイトはまた北米の大学に主に深見名での寄付講座を設けている 16 。

むすび

日本の宗教の海外での活動は、そこに住む日系人、日本人のコミュニティセンター」的な機能が一つの重要な機能であったが、新宗教の場合は外国人の布教にも積極的な教団がある。さらに最近では、さまざまな社会活動、文化交流などの形をとって、海外での活動を展開している例がある。グローバル化の中で宗教の広まり、また他の国々の人びととの関わりのあり方も多様化している。

初期のハワイ日系移民のように、主としてプランテーションでの労働力として生活していた時代には、移民の生活形態もさほど多様ではなかった。しかし現在では日系人もさまざまな職種につき、また各地に分散して生活する度合いが増えている。そこではさまざまな宗教文化との接触、交流の中で生きていくことになる。国境、地域などのボーダーがあまり意識されることなく、宗教の教えや習俗などの伝達がなされていく割合が増えていると考えられる。さらに企業の海外進出によってさまざまな国に住むことになった日本人の中に、自分の信仰する宗教を周りに伝えたいと思った場合の形態は、従来の海外布教とは異なったルートとネットワークの中に置かれることになる。それらは研究者が把握しにくいものであるが、グローバル化の中で日本の宗教や宗教文化が海外でどのように変容しながら広がっていくのかは、興味深いテーマであり、長い

タイムスパンで眺めていくべきものである。

参考文献

井上順孝、1985、『海を渡った日本宗教』弘文堂。

井上順孝・孝本貢・対馬路人・中牧弘允・西山茂編、1996、『新宗教事典本文篇』、 弘文堂。

川端亮・稲場圭信、2018、『アメリカ創価学会における異体同心――二段階の現地化』、新曜社。

菅浩二、2011、『日本統治下の海外神社―朝鮮神宮・台湾神社と祭神』、弘文堂。

高橋典史、2014、『移民、宗教、故国―近現代ハワイにおける日系宗教の経験』、ハーベスト社。

ケネス・タナカ、2010、『アメリカ仏教 仏教も変わる、アメリカも変わる』武 蔵野大学出版会。

中牧弘允、1986、『新世界の日本宗教』、平凡社。

前田孝和、1999、『ハワイの神社史』、大明堂。

渡辺雅子、2001、『ブラジル日系新宗教の展開――異文化布教の課題と実践』、東信堂。

注

- 1) 柳川啓一・森岡清美編『ハワイ日系人社会と日本宗教』(東京大学宗教学研究室、1981年)、及び拙著[井上順孝、1985]を参照。
- 2) 『在留邦人』とは、海外に3か月以上在留している日本国籍を有する者を指す。「在留邦人」は、「長期滞在者」、「永住者」の二つに区分される。「長期滞在者」は、3か月以上の海外在留者のうち、海外での生活は一時的なもので、いずれわが国に戻るつもりの邦人を指す。「永住者」は原則として当該在留国等より永住権を認められており、生活の本拠をわが国から海外へ移した邦人を指す。
- 3) 以下、アメリカ椿大神社の記述については、石黒弓美子『「アメリカ椿大神社」の研究』 (國學院大學大学院修士論文、2013 年) を参照した。
- 4) 国際センターの活動に関しては下記のサイトを参照した。http://international.hong-wanji.or.jp/jp/html/category2_europe.html
- 5) 『禅と骨』は米国人禅僧のヘンリ・ミトワを描いたドキュメンタリー映画であるが、ヘンリも米国で千崎如幻によって禅を知った一人である。
- 6) 岩本明美「アメリカ禅の誕生―ローリー大道老師のマウンテン禅院」(『東アジア文化

交渉研究 別冊』2010年)は、一九世紀末に端を発するアメリカにおける禅の広まりを概括している。

- 7) 弟子丸泰仙のヨーロッパでの活動は、弟子丸泰仙『禅僧ひとりヨーロッパを行く』(春秋社、1971 年)、同『ヨーロッパ狂雲記』(読売新聞社、1973 年) などが参考になる。
- 8) グラフ作成にあたっては、以下の東洋哲学研究所のサイトに記載されているデータを利用した。

http://www.totetu.org/about/about-founder/1.html

- 9)『新宗教事典』の本文は1996年に『新宗教事典本文篇』として改訂縮刷版が刊行されているが、海外布教に関しては基本的に同じ情報である。
- 10) 井上まどか「今なおロシアで続くオウム真理教の活動―日本とロシアの並行現象―」 (宗教情報リサーチセンター編『<オウム真理教>検証する―そのウチとソトの境界線』 (春秋社、2015 年)参照。
- 11) 台湾では日本宗教の活動がふえており、2017年段階で、真如苑の他、創価学会、天理教、立正佼成会、日蓮正宗が複数の法人を設置している。
- 12) ベレズキン・リイサ「真如苑の国際信者―台湾とタイの比較を通して―」(『神道研究集録』31、2017年)参照。なお、ベレズキンは台湾とタイの真如苑の比較調査をおこない、タイの信者が少ないことの理由を受け入れる側の社会的文化的な違いで説明している。バンコックのセンターは2000年に設立され、300人ほどとされている。
- 13) 妙智會教団の活動については、李和珍「研究ノート 妙智會教団とグローバル化―「ありがとうインターナショナル」への改称を中心に―」(『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第8号、2015年)においても、論じられている。
- 14) 國學院大學日本文化研究所編『宗教教育資料集』(すずき出版、1993年)参照。
- 15) PL 学園女子短期大学は 1974 年に設立されたが、2009 年に廃止された。また幸福の 科学は 2014 年に「幸福の科学大学」の設立を文部科学省に申請したが不認可となった。
- 16) 深見東州はワールドメイトのリーダー名であり、本名は半田晴久。2010年代になり、 北米ではコロンビア大学、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、同ロサンゼルス校 で講座やプログラムを設けている。